

## (様式1) 実施報告書

### 1 応募者情報

#### (1) 応募者団体情報

団体名	島根県
-----	-----

(2) 都道府県・政令指定都市からの指定の有無及び連携（応募者が地域国際化協会及び地域国際化協会に準ずる法人または団体の場合のみ記載）

#### ①都道府県・政令指定都市からの指定の有無

（応募者が地域国際化協会及び地域国際化協会に準ずる法人または団体の場合のみ記載）

指定の有無 有・無

指定の内容

#### ②都道府県・政令指定都市との具体的な連携

（応募者が地域国際化協会及び地域国際化協会に準ずる法人または団体の場合のみ記載）

### 2 事業の概要

#### (1) 全体概要

①事業の名称	多文化共生推進事業（多文化共生社会の実現に向けた地域における包括的な日本語学習の環境整備）
--------	---

#### ②目的等

##### 1 目的

仕事や家庭の都合、近くに日本語教室がない等の理由により、日本語を学習することができない県内の外国人住民のために、個別に訪問し日本語指導を行う訪問日本語コース（地域訪問型・企業訪問型）を開催する。加えて、オンライン日本語コース（基礎・レベル別）を開催することによって、日本語学習機会を広げるとともに、学習者の日本語レベルに合わせた教室を開催し、「日本語教育の参照枠」に基づく自立した言語使用者（B1 レベル相当）となるよう外国人住民の日本語学習環境を充実させる。

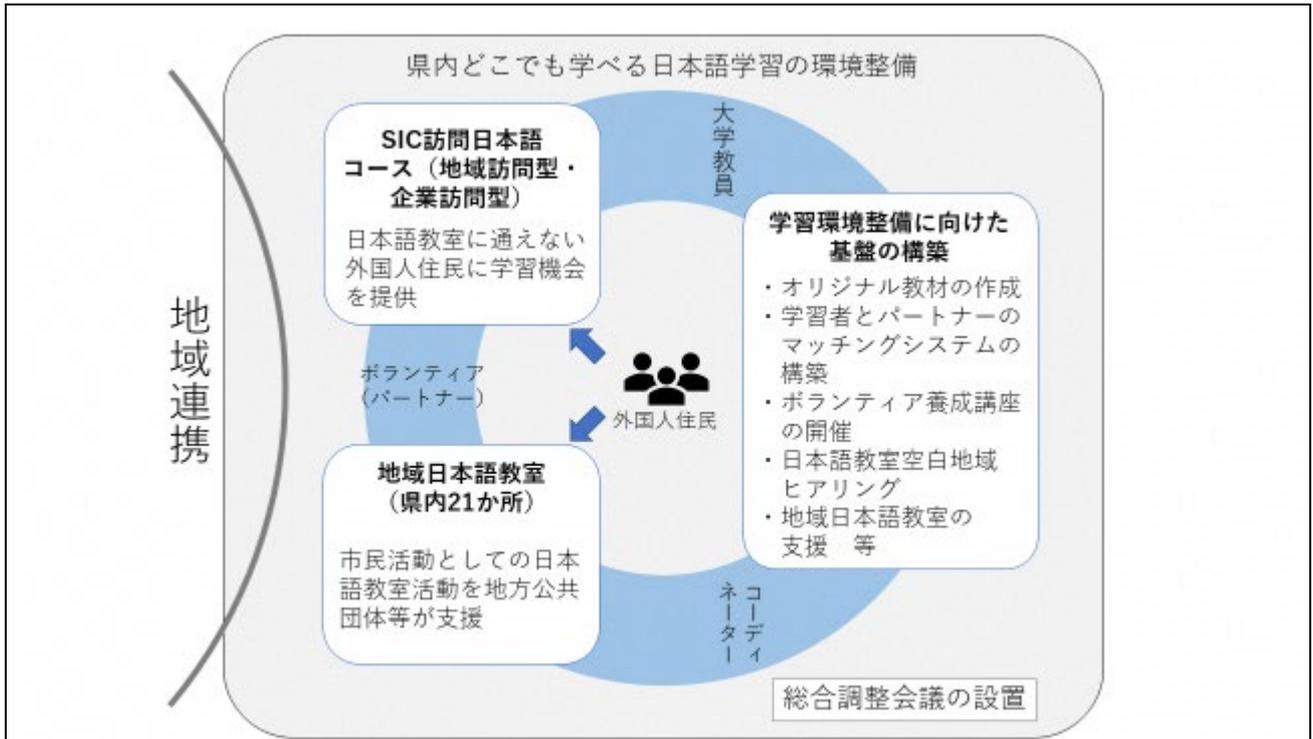
事業実施にあたっては、日本語を指導するボランティアの養成やスキルアップ研修を行い、県内市町村や日本語教室、国際交流団体・外国人支援団体、企業、大学等とも連携し、日本語教育の体制整備の強化を図る。

また、高齢化・後継者不足が課題となる日本語教室の支援や、県内行政機関・県民向けに、外国人住民も理解しやすい「やさしい日本語」の出前講座を開催する。

これらの取組を通じて、多文化共生社会の実現に向けた包括的な日本語教育体制の整備を目指す。

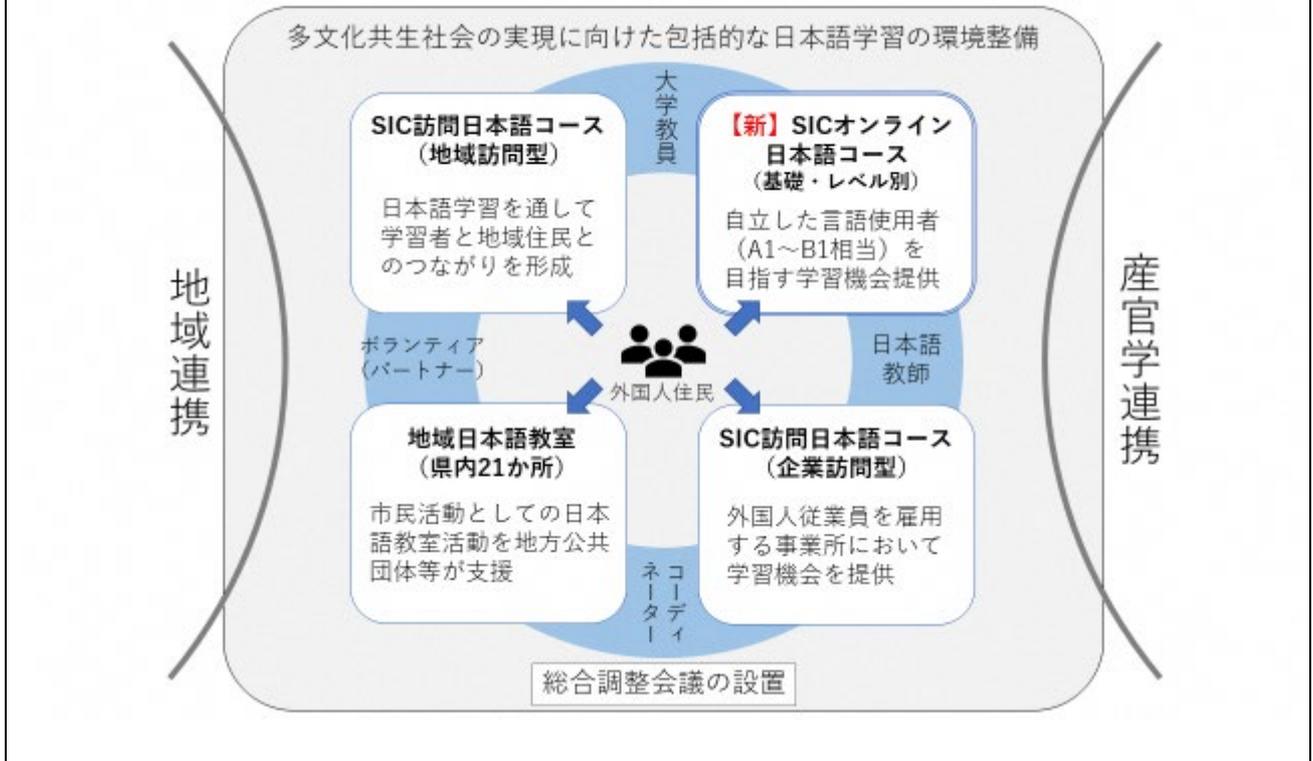
##### 2 本事業を通じて構築を目指す体制の全体像

【現在の状況：図示も可】



第1期（平成31年4月～令和4年3月）の取組を通じて、上図の体制構築を図った。

【構築を目指す体制：図示も可（上記に構築する体制を追記）】



(2) 令和4年度事業の概要

①事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日（12カ月間）
--------	---------------------------

②前年度までの年次計画における進捗状況（新規応募団体は記載不要）

ボランティアにより運営されている地域の日本語教室とも連携し、日本語を習得したい外国人住民に学習機会を提供するとともに、外国人にも理解しやすい「やさしい日本語」の普及促進を図った。

時間や場所の制約により日本語を学習することができない外国人住民向けに、近隣の公共施設等にボランティアが出向く地域訪問型の日本語教室や企業単位で日本語教育を行う企業訪問型の日本語教室を新設し、日本語を学習する機会の拡充を図った。さらに、日本語を学習したい外国人住民と日本語ボランティアをつなぐマッチングシステムを構築し、効率的にベストな組み合わせができるように運営体制も整備した。

また、県のオリジナル日本語学習教材を作成し、日本語ボランティアによる指導が円滑に進むよう取り組むとともに、その教材を日本語教室にも提供し、運営支援につなげた。

③前年度までの成果と課題（新規応募団体は記載不要）

1 地域日本語教室の実施

第1期事業により新たに訪問日本語コースを創設し、時間や場所の制約により日本語を学習することができなかった外国人住民向けの学習機会が広がった。

一方、ボランティアによって訪問できる地域（遠隔地は負担大）や日時が限られていることから、日本語を学習したい外国人住民とボランティアのマッチングができないケースも生じている。

また、外国人住民は、それぞれの日本語習得レベルが異なり、「日本語教育の参照枠」に基づく自立した言語使用者となるためには、レベルに応じた学習を、提供していく必要がある。

第1期事業により見えてきた上記の課題に対応するため、新たにレベル別による日本語コース（オンライン）を創設し、外国人住民の日本語学習機会を更に充実させるとともに、日本語指導経験者を起用することによって、オンラインによるマイナス面をカバーするとともに、学習者の日本語習得レベルに応じた内容を、柔軟に提供する。

2 日本語教室の取組支援

日本語教室は、今後も、地域における日本語学習の場として欠かせない存在であるが、ボランティアの高齢化及び後継者不足により継続的な運営が難しくなっていることから、市町村と連携し、ボランティア養成講座を開催するなど、今後も新たなボランティアを養成・確保していく必要がある。また、新たに住民となる外国人へも周知を図り、日本語教室の利用促進と活性化を図るため、日本語教室MAPを作成・配布する。

3 「やさしい日本語」の普及

第1期事業により実施した出前講座・研修により、「やさしい日本語」を市町村・小中学校・公民館・民間団体等へ周知することができた。一方、「やさしい日本語」を活用した情報発信等の取組は、十分に進んでいないことから、外国人住民に理解しやすい「やさしい日本語」の活用推進を図っていく。

4 日本語教室空白地域への対応

令和3年度に実施した日本語教室のない8町村へのヒアリングにおいて、外国人住民の雇用・生活状況や日本語学習機会の必要性について実態を確認した。この地域に居住する外国人は少数で、身近にサポートしてもらえる日本人がいること、日本に長く住んでおり日本語が話せることなどから、日本語教室の設置が求

められている状況ではなかった。一方、地元企業による技能実習生の受入もあり、外国人住民の日本語学習ニーズはあることから、訪問日本語コース等による学習機会の提供を行っていく必要がある。

#### ④令和4年度の目標

令和4年度には、新たにオンライン日本語コース（基礎・レベル別）の設計・試行を行い、日本語学習機会の拡充を図る。

また、日本語教室の所在する市町へのヒアリングを行い、日本語教室の運営継続のための支援と連携した取組に向けた現状を把握する。

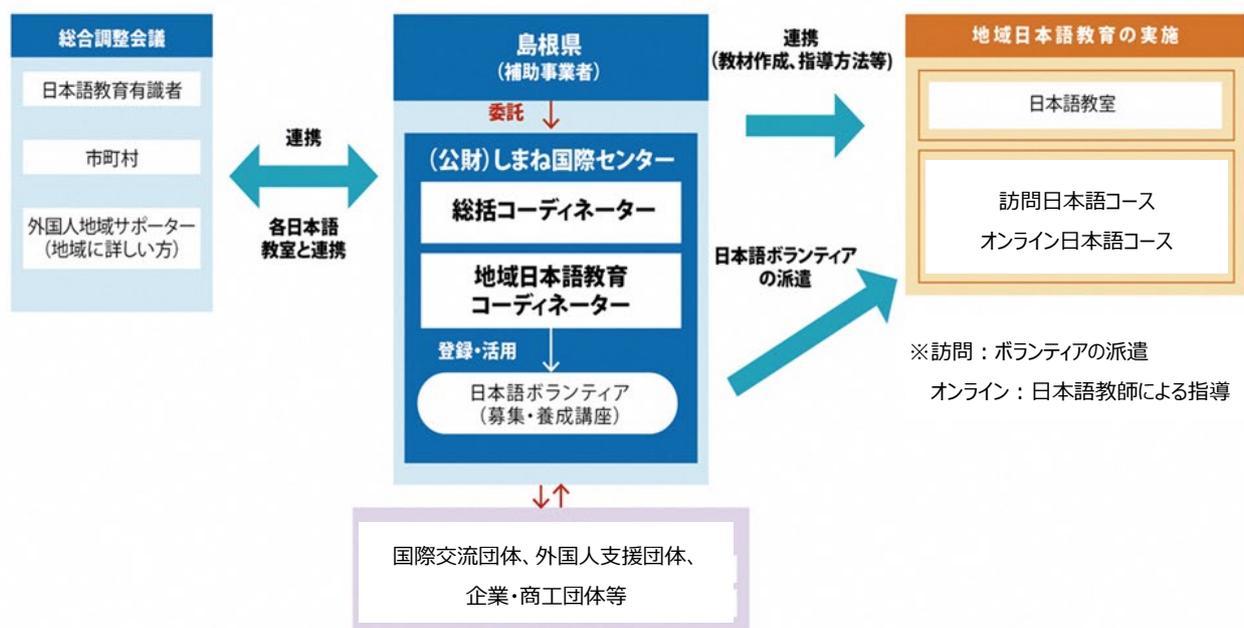
#### ⑤令和4年度的主要な取組内容

- ・訪問日本語コースの実施
- ・オンライン日本語コースの設計、試行
- ・「日本語ボランティア入門講座」の実施
- ・日本語教室MAPの作成・配布
- ・「やさしい日本語」の出前講座の開催

### 3 事業の実施体制

(1) 実施体制（図表等を活用して、総括コーディネーター及び地域日本語教育コーディネーター、調査計画推進コーディネーターを含めて記載してください。)

島根県では、日本語教育事業をしまね国際センターへ委託し、連携して取り組んでいる。事業の進め方は総合調整会議で協議し、構成員の意見を聞きながら進めることとする。



《事業の中核メンバー》				
	氏名	所属	職名	役割
1	承諾済	伊藤 泰隆	島根県文化国際課	調整監
2	〃	増田 絢子	〃	主任
3	〃	仙田 武司	しまね国際センター	多文化共生推進課長
4	〃	岩田 和美	〃	地域日本語教育コーディネーター
5	〃	古曳 町子	〃	地域日本語教育コーディネーター

## (2) 域内の市区町村、関連団体等との連携・協力体制

<ul style="list-style-type: none"> <li>県内で外国人住民の約7割が集住する県東部地域の2市（松江市、出雲市）と、令和3年度に県内初の民間日本語学校が開設された県西部地域の1市（江津市）、県内で最も外国人住民比率が高く、訪問日本語コース〈企業訪問型〉の実施に助成を行っている県西部地域の1町（吉賀町）を総合調整会議の構成員とした。</li> <li>また、日本語教室が所在する市町にヒアリングを行い、日本語教室の運営継続、連携、支援のあり方について検討を行った。</li> <li>外国人住民と行政等との橋渡し役として活動する外国人地域サポーター（主に外国人支援団体や日本語教室関係者）の代表者も総合調整会議の構成員とし、情報共有・連携に繋げた。</li> <li>庁内では、平成30年度から関係部局による連携会議を設けており、引き続き情報共有・協力を図った。</li> <li>また、外国人材・外国にルーツを持つ児童生徒の日本語習得支援の担当課として、県の雇用政策課・教育指導課を総合調整会議の構成員とした。</li> </ul>
--

## 4 令和4年度の実施内容

### (1) 実施内容

1. 広域での総合的な体制づくり				
【必須項目】				
(取組①) 総合調整会議の設置				
①構成員				
	氏名	所属	職名	役割
1	椋本 奈美子	松江市観光振興部 国際観光課	国際交流係 係長	行政の立場からの助言・評価、自治体関係部署との連携等
2	佐々木 俊一	江津市政策企画課	政策企画係 主任	〃
3	今岡 三保	出雲市総合政策部	多文化共生係	〃

		政策企画課 文化国際室	係長	
4	河野 千明	吉賀町税務住民課	主幹	〃
5	堀西 雅亮	NPO 法人エスペランサ	外国人地域サポーター	地域住民・ボランティア・外国人の各立場からの助言・評価、地域住民への啓発、コミュニティ活動支援
6	平田 節子	在住外国人市民共生の会（副代表）	外国人地域サポーター	〃
7	佐藤 智照	島根大学外国語教育センター	准教授	専門家の立場からの人材育成・カリキュラム作成・助言・評価等
8	芝 由紀子	(一社)ダイバーシティうんなん (代表理事)	外国人地域サポーター、日本語教師、多文化共生マネージャー	〃
9	内藤 高彰	島根県商工労働部 雇用政策課 多様な就業推進室	外国人材雇用情報提供窓口 専門員	行政の立場からの助言・評価、自治体関係部署との連携等
10	山根 宏樹	島根県教育庁 教育指導課	指導主事	〃
11	仙田 武司	しまね国際センター	多文化共生推進課長	
12	岩田 和美	〃	地域日本語教育コーディネーター	
13	古曳 町子	〃	〃	
14	伊藤 泰隆	島根県文化国際課	多文化共生推進スタッフ	
15	増田 絢子	〃	主任	

②実施結果

実施回数	年2回
実施スケジュール	(第1回) 2022年5月27日 13:30~15:30 (第2回) 2023年1月25日 13:30~16:00
主な検討項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の外国人住民の実態・ニーズの把握</li> <li>・事業進捗状況の報告</li> <li>・県及び地域における日本語教育に関する課題と対応策</li> </ul>

(取組②-1) 総括コーディネーターの配置

<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域日本語教育アドバイザー（文化庁）、地域国際化推進アドバイザー（（一財）自治体国際化協会）の登録者で多文化共生事業に経験豊富な（公財）しまね国際センターの職員1名を配置した。</li> <li>・総括コーディネーターは地域日本語教育コーディネーターの指導・補佐にあたり、連携を取りながら県内の日本語教育体制の整備を進めた。</li> </ul>
<p>（取組②－２）地域日本語教育コーディネーターの配置に向けた取組</p>
<p>地域日本語教育コーディネーターの配置【(○)】</p> <p>地域日本語教育コーディネーターの候補者育成支援【( )】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・（公財）しまね国際センターに2名配置し、日本語教育人材に対する研修（取組⑤）、地域の日本語教育の実施（取組⑥）を実施するための準備・事業運営にあたった。また、オンライン日本語コースを加えたことによる新たな業務については、地域日本語教育コーディネーターとして必要となる人役を確保した。</li> </ul> <p>具体的には、（取組⑤）については、開催場所の確保、講師の選定・依頼、受講者の募集、研修の運営、（取組⑥）については、学習者の募集、ボランティアとのマッチング、顔合せ、学習者やボランティアの支援、オンライン日本語コースのカリキュラム作成・運営等にかかる活動を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・その際、総括コーディネーターと連携した。</li> </ul>
<p>（取組②－３）調査・推進計画策定コーディネーターの配置</p>
<p>（配置なし）</p>
<p><b>【重点項目】</b></p>
<p>（取組③）都道府県等の域内における日本語教育の実施に関する連携のための取組</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語教室MAP作成にあたり、日本語教室へのアンケート調査の実施。</li> </ul> <p>県内19箇所ある日本語教室にアンケート調査を行い、活動状況、学習者の状況（人数・国籍・在留資格等）、課題や行政に対する要望などを把握し、日本語教育に関するニーズを取りまとめ、対応策についての検討材料とした。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県、市町村、関係団体（国際交流団体・外国人支援団体・日本語教室等）との情報共有・意見交換の会議を県東部・西部地域で開催した。</li> </ul> <p>市町村担当者及び関係団体から日本語教育に関する課題やニーズを聞き取り、方策の検討に繋げた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・庁内に関係部局で構成される連携会議を設けており、情報共有を図りながら日本語教育に関するニーズを確認し、引き続き連携した取組を行った。（県立高校における日本語指導が必要な生徒の受入れ体制整備、高等技術校における就職を希望する定住外国人向けの日本語能力等に配慮した訓練コースの支援）</li> <li>・市町村と連携して日本語教室支援のための取組を実施した。（ボランティア養成講座等）</li> </ul> <p>○出雲市</p> <p>【開催時期】令和4年12月17日 9:30～12:00（2.5時間）</p> <p>【会場】出雲市役所 くにびき大ホール</p> <p>【対象】出雲市内の日本語教室で活動中のボランティア</p> <p>【参加者】14名</p>

【講師】 しまね国際センター 総括コーディネーター、地域日本語教育コーディネーター

【内容】

- ・在留資格について
- ・ワークショップ「ANADO」（地域日本語教育の現場で起こりうる困難や葛藤などについて、他のプレイヤーと意見交換しながら、課題解決のプロセスを体験するシミュレーションゲーム）
- ・日本語ボランティアの意見・情報交換

○大田市

【開催時期】 令和5年1月21日（土） 13:00～16:00（3時間）

【会場】 おおだふれあい会館 大会議室

【対象】 大田市内の日本語教室で活動中のボランティア、日本語教室での活動に関心がある方

【参加者】 27名

【講師】 しまね国際センター 総括コーディネーター、地域日本語教育コーディネーター

【内容】

- ・「生活者としての外国人」と日本語教室の活動
- ・「やさしい日本語」でのコミュニケーション
- ・Can-do とは？
- ・会話学習の支援について考える

（取組④）市区町村への意識啓発のための取組

- ・県内の日本語教室が所在する市町へのヒアリングを実施した。  
日本語教育に係る連携・支援ニーズの聞き取り、日本語教室への支援のあり方等について調査した。  
実施市町：松江市、浜田市、出雲市、益田市、大田市、安来市、江津市、雲南市、奥出雲町、美郷町
- ・市町村が実施している外国人支援施策（日本語教育に関する事業を含む）について取りまとめ、市町村に情報提供し、先進的な取組が他の市町村でも広がるよう支援を行った。
- ・市町村職員を対象に「やさしい日本語」出前講座を行い、外国人住民への日本語教育の必要性・県の取組について説明し、意識啓発を行った。

（取組⑤）日本語教育人材に対する研修

- ・「日本語ボランティア入門講座」の実施  
訪問型日本語コースの実施にあたり、学習者を訪問し、日本語学習支援を行うボランティアを養成した。  
【開催時期】 東部地域 対面：令和4年5月15・22・29日 13:30～16:30（3時間×3日）  
動画視聴：令和4年5月22～29日  
西部地域 対面：令和4年6月18・19・26日 13:30～16:30（3時間×3日）  
動画視聴：令和4年6月19～26日  
【会場】 東部地域 直江コミュニティセンター 集会室（出雲市）  
西部地域 パレットごうつ会議研修室（1）（江津市）

【対象者】外国人住民との交流に関心を持ち、日本語ボランティアとして参加意欲を持つ者

【数参加者数】2地域の合計 42名（東部地域 28名／西部地域 14名）

【講師】島根大学外国語教育センター 准教授 佐藤智照氏ほか

【内容】

- ①講義「島根で暮らす外国人の様々な形」、「訪問型日本語教室の活動方法について」
- ②動画視聴「県オリジナル教材の特徴と内容、活動のポイント」「県オリジナル教材を使った教え方」
- ③実習「県オリジナル教材を使った教え方」、「やさしい日本語」
- ④ワークショップ「国際理解・異文化コミュニケーション」 等

・「SIC にほんごコース《となりでにほんご》オンライン講座」の実施

訪問日本語教室の実施にあたり、オンラインで日本語学習支援を行うボランティアを養成した。

【開催時期】令和4年7月16日 10:00～11:30（1.5時間）

【対象者】「日本語ボランティア入門講座」に参加したことがある方

【参加数】14人

【講師】しまね国際センター 地域日本語教育コーディネーター

【内容】・県オリジナル教材によるオンラインでの学習の進め方 等

・「企業訪問型日本語ボランティア研修」（スキルアップ研修）の実施

企業訪問型日本語教室の指導にあたるボランティアを対象に、①クラス形式（グループ単位）での指導方法についての研修、②クラス指導体験研修を実施した。

【実施時期】①動画視聴 令和5年2月14日～2月24日

YouTube でのオンデマンド教材の視聴とアンケート

②クラス指導研修 東部地域 令和5年2月25日 10:00～12:00（2時間）

西部地域 令和5年3月4日 13:30～15:30（2時間）

希望者を対象に、2箇所で開催を実施

【対象者】日本語ボランティアとしての経験を持ち、企業訪問型日本語教室での指導に協力できる者

【参加者】①28名、②2地域の合計 17名（東部地域 12名／西部地域 5名）

【講師】しまね国際センター 地域日本語教育コーディネーター

【内容】①講義「SIC にほんごコース《職場でにほんご》とは？」「島根県の外国人住民の日本語能力と日本語学習」「クラス形式の日本語学習の進め方」「仕事に関する日本語」

②「にほんごコース《職場でにほんご》について」「県オリジナル教材『いっしょににほんごしまねけん』の特徴と内容」「クラスで教える際のポイントと指導体験」

（取組⑥）地域日本語教育の実施

実施するものに○  都道府県・政令指定都市が主催する地域日本語教育

日本語教育実施機関団体等への地域日本語教育

実施箇所数	下記のとおり	受講者数 (実人数)	下記のとおり
活動 1	<p>【名称】しまね国際センター(S I C)訪問日本語コース&lt;地域訪問型&gt;既設</p> <p>【目標】仕事・家庭の都合や、地理的な要因等により日本語教室に通うことができない外国人住民が言葉の問題で孤立することがないように、地域とのつながりを作るため、個別訪問型の日本語教室を開催した。</p> <p>【実施回数】全 10 回 (1 回 1.5 時間)</p> <p>【受講者数】44 人</p> <p>【実施場所】学習者が希望する近隣の公共施設 (公民館等) (受講者数 24 人) 自宅 (オンライン) (受講者数 20 人)</p> <p>【受講者募集方法】しまね国際センターHP、チラシ配布、SNS 等</p> <p>【内容】ボランティアが個別に訪問 (オンライン) し、県オリジナル教材を使用し、日常生活において簡単なコミュニケーションができるレベルの日本語習得を支援した。</p> <p>具体的な指導内容：第 1 回 にほんごのべんきょうをはじめましょう 第 2 回 わたしのすきなこと 第 3 回 わたしのしゅっしんち 第 4 回 わたしのくにのゆうめいなりょうり 第 5 回 まとめ (1) 第 6 回 わたしのしょくせいかつ 第 7 回 わたしのせいかつ 第 8 回 わたしのきゅうじつ 第 9 回 わたしのほしいもの、したいこと 第 10 回 まとめ (2)</p> <p>【開始した月】6 月</p> <p>【講師】34 人 (うち、ボランティア 34 人) 「日本語教育の参照枠」や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無：あり (県オリジナル教材作成の参照とした。)</p> <p>【関係機関との連携】・松江市：学習場所として松江市国際交流会館を無償提供 ・出雲市：学習場所としてコミュニティセンターを無償提供</p>		
活動 2	<p>【名称】しまね国際センター(S I C)オンライン日本語コース&lt;基礎&gt;新設</p> <p>【目標】仕事・家庭の都合や、地理的な要因等により日本語教室に通えず、訪問日本語コース&lt;地域訪問型&gt;では対応できない、日本語の基礎的な内容の学習を希望する外国人住民のため、オンラインによる日本語教室を設計、試行した。</p> <p>【実施回数】全 12 回 (1 回：2 時間)</p> <p>【受講者数】12 人</p>		

	<p>【実施場所】 しまね国際センター（オンライン）</p> <p>【受講者募集方法】 しまね国際センターHP、チラシ配布、SNS等</p> <p>【内容】 オンライン型の日本語教室を開催し、オリジナル教材を使用したひらがな・カタカナの学習と、日常生活において簡単なコミュニケーションができるレベルの日本語習得を支援した。</p> <p>具体的な指導内容：第1回 あ・か・が・さ・ざ行、学習に必要な言葉  第2回 た・だ・な・は・ば・ぱ行、挨拶、学習に必要な言葉  第3回 ま・や・ら行  第4回 わ・を・ん  第5回 長音、促音  第6回 長音、促音、拗音  第7回 ア・カ・ガ・サ・ザ行  第8回 タ・ダ・ナ・ハ・バ・パ行  第9回 ナ・ハ・バ・パ・マ・ヤ・ラ行  第10回 促音、拗音、長音  第11回 復習  第12回 修了テスト</p> <p>【開始した月】 5月</p> <p>【講師】 3人（うち、日本語教師3人）</p> <p>「日本語教育の参照枠」や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無：あり</p>
活動3	<p>【名称】 しまね国際センター(SIC)オンライン日本語コース&lt;レベル別&gt;新設</p> <p>【目標】 日本語を学習したい外国人住民の日本語習得レベルが異なることから、求められるレベルに応じた学習環境を整備するため、オンライン日本語コース（レベル別）を設計、試行した。</p> <p>【実施回数】 入門 20回、初級1 20回、初級1後期 19回（1回：2時間）</p> <p>【受講者数】 入門 20人、初級1 8人、初級1後期 9人</p> <p>【実施場所】 しまね国際センター（オンライン）</p> <p>【受講者募集方法】 しまね国際センターHP、チラシ配布、SNS等</p> <p>【内容】 日常生活に必要な日本語の基礎を習得できることを目指し、3つのクラスを開講し、段階的に日本語を習得できるよう支援した。クラス開始時にレベルチェックテストを行い、無理なく学習に参加できるかどうかを判定した。</p> <p>具体的な指導内容：</p> <p>○入門クラス ※使用教材『いんどり 入門/A1』</p> <p>第1回 教室の日本語、第1課（挨拶）</p> <p>第2回 教室の日本語、第2課（日本語がわからないときに聞き返す）</p>

- 第3回 第3課 (自己紹介)
- 第4回 第4課 (家族)
- 第5回 第5課 (好きな／嫌いな食べ物)
- 第6回 第6課 (食事の注文)
- 第7回 第7課 (家と部屋)
- 第8回 第8課 (職場の部屋と施設)
- 第9回 第9課 (1日のスケジュール)
- 第10回 第10課 (職場での指示)
- 第11回 第11課 (趣味、好きなこと)
- 第12回 第12課 (イベントに参加する)
- 第13回 第13課 (電車やバスの利用)
- 第14回 第14課 (場所を尋ねる／伝える)
- 第15回 第15課 (買い物①)
- 第16回 第16課 (買い物②)
- 第17回 第17課 (休日①)
- 第18回 第18課 (休日②)
- 第19回 復習
- 第20回 修了テスト

○初級1クラス ※使用教材『いろどり 初級1/A2』

- 第1回 第1課 (近況と仕事)
- 第2回 第2課 (趣味や好きなこと、休みの日の過ごし方)
- 第3回 第2課 (家族や趣味の紹介)
- 第4回 第3課 (日本や出身地の季節)
- 第5回 第4課 (天気と天気予報)
- 第6回 第5課 (住んでいる町)
- 第7回 第5課 (町のおすすめの場所)
- 第8回 第6課 (道を尋ねる)
- 第9回 第6課 (目的地への行き方)
- 第10回 第7課 (待ち合わせ)
- 第11回 第7課 (遅刻の連絡)
- 第12回 第8課 (誘う、外出する)
- 第13回 第8課 (外出した感想)
- 第14回 第9課 (日本語の学習)
- 第15回 第9課 (日本語の学習方法)

	<p>第16回 第10課（講座の案内と問合せ）  第17回 第10課（日本語教室の感想と申込み）  第18回 復習  第19回 修了テスト  第20回 修了テスト</p> <p>○初級1後期クラス ※使用教材『いろどり 初級1/A2』</p> <p>第1回 第11課（パーティーの準備）  第2回 第11課（食べ物の材料や消費期限、食品表示）  第3回 第12課（食べ物の印象と感想）  第4回 第12課（料理の味や材料、インスタント食品の作り方）  第5回 第13課（職場でのトラブルと作業状況）  第6回 第13課（職場の機械の使い方）  第7回 第14課（遅刻や休みの連絡）  第8回 第14課（休暇の許可）  第9回 第15課（病院①）  第10回 第15課（病院②）  第11回 第16課（健康①）  第12回 第16課（健康②）  第13回 第17課（訪問、おみやげ）  第14回 第17課（持ち物、お礼の連絡）  第15回 第18課（プレゼントと送別会①）  第16回 第18課（プレゼントと送別会②）  第17回 復習  第18回 修了テスト  第19回 修了テスト</p> <p>【開始した月】 入門 7月、初級1 10月、初級1後期 12月  【講師】 3人（うち、日本語教師3人）  「日本語教育の参照枠」や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無：あり</p>
活動4	<p>【名称】 しまね国際センター(SIC)訪問日本語コース&lt;企業訪問型&gt;既設  【目標】 外国人材を受入れている企業を対象に、外国人材が仕事の作業や日常会話において必要となる日本語の習得のため、企業向けのグループ単位での日本語教室を開催した。</p>

	<p>【実施回数】全12回（1回1.5時間）</p> <p>【受講者数】6人（6人×1企業）</p> <p>【実施場所】吉賀町</p> <p>【受講者募集方法】しまね国際センターHP、商工団体・監理団体への通知、企業セミナーでのチラシ配布等</p> <p>【内容】社内や地域でのコミュニケーションに必要な日本語</p> <p style="padding-left: 40px;">具体的な指導内容：第1回 能力判定試験</p> <p style="padding-left: 80px;">第2回 自己紹介</p> <p style="padding-left: 80px;">第3回 教室の言葉</p> <p style="padding-left: 80px;">第4回 家族の紹介</p> <p style="padding-left: 80px;">第5回 日本の食事とマナー</p> <p style="padding-left: 80px;">第6回 好きな食べ物</p> <p style="padding-left: 80px;">第7回 日本人の休日の過ごし方</p> <p style="padding-left: 80px;">第8回 毎日の生活</p> <p style="padding-left: 80px;">第9回 休みの日の過ごし方</p> <p style="padding-left: 80px;">第10回 趣味、好きなこと</p> <p style="padding-left: 80px;">第11回 復習</p> <p style="padding-left: 80px;">第12回 能力判定試験</p> <p>【開始した月】9月</p> <p>【講師】9人（うち、日本語教師2人、ボランティア7人）</p> <p style="padding-left: 40px;">ボランティアは、吉賀町在住で、日本語ボランティア入門講座を受講した者があった。</p> <p>「日本語教育の参照枠」や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無：あり</p>
--	--

（取組⑦～⑭）その他の取組

（取組⑭）県オリジナル教材の普及

令和2年度に作成した教材『となりでにほんご』を訪問型日本語教室で使用するとともに、地域の日本語教室にも無償提供を行い、普及を促した。また、より多くの学習希望者に対応するために、クメール語・インドネシア語・ネパール語・ミャンマー語の翻訳を行った。

（取組⑭）日本語教室の取組支援

県内に19箇所ある日本語教室は、外国人住民にとって日本語学習の場としてだけでなく、地域の日本人との交流の場にもなっている。日本語教室は協力者の固定化や高齢化が進んでいることから、活動の継続と活性化に向けた取組支援を行った。

① 日本語教室MAPの作成・配布

多言語表記による日本語教室MAPを作成・配布し、外国人住民の利用促進を図った。

**【内容】**

- ・多言語による日本語教室MAPの作成（3,000部）
- ・市町村窓口・公共施設等に配置し、外国人住民の利用促進を図った。

② ボランティア保険費用補助

日本語教室の運営支援のため、ボランティアが自己負担しているボランティア保険費用を助成した。

**【教室数】** 5 教室

**【人数】** 57 人

③ 県オリジナル教材の無償提供、出前研修の開催

県オリジナル教材（2種）を希望する日本語教室に無償提供し、併せて教材を利用した指導方法の出前講座を開催した。

**【教材配布】** 6 教室、『いっしょにほんごしまねけん』54 冊、『となりでにほんご』23 冊

**【出前講座実施数】** 4 教室

**【出前講座内容】** ①県オリジナル教材の使い方（必須）、②各教室からの要望（「やさしい日本語」について、日本語教育の参照枠と生活 Can-do について、外国語としての日本語について 等）

(取組⑭) 「やさしい日本語」の普及

外国人にも理解しやすい「やさしい日本語」の普及促進のため、行政機関・公民館・学校・企業等での出前講座を開催した。

**【実施回数】** 19 回

**【受講者数】** 800 人

**【実施場所】** 申込みがあった団体が準備した会場

**【受講者募集方法】** しまね国際センターHP、イベントでの周知、関係先へのチラシ配布 等

**【内容】** 県・しまね国際センターが作成した『「やさしい日本語」の手引き』などを資料として用い、外国人とのコミュニケーションにあたり、「やさしい日本語」が効果的であること、「やさしい日本語」の活用などについて講座を実施し、外国人住民とのコミュニケーションの意識醸成を図った。

(取組⑭) 先進地視察

日本語教育に関し、先進的・地域性の高い取組を実施している岡山県総社市、市町村との連携に取り組んでいる山口県、対一形式での日本語学習を長年実施しているひろしま国際センターを訪問し、取組調査・意見交換を行った。

**【内容】**

- ・岡山県総社市

日系ブラジル人が多く（本県との類似点あり）、平成 22 年から実施している「地域でつながる日本語事業（文化庁補助）」の取組を視察し、併せてコーディネーター、日本語講師、日本語ボランティア、市職員との意見交換を行った。

- ・山口県、山口県国際交流協会

山口県と山口県国際交流協会が実施している日本語教育支援事業のうち、市町村との連携に関することを中心に説明を受け、意見交換を行った。また、モデル地域の日本語教室で行われている日本語学習を視察した。

- ・ひろしま国際センター

ひろしま国際センターが実施している「ワンペア日本語学習」について、事業担当者から事業概要やマッチングの工夫等についての説明を受け、しまね国際センター(S I C)訪問日本語コース<地域訪問型>の参考とした。

(取組⑭) ボランティア・学習者等の交流会

訪問型日本語教室に参加した外国人住民・ボランティア・日本語教師の交流会を開催した。

【開催時期】 令和5年1月29日 10:00~12:00 (2時間)

【会場】 オンライン (Zoom)

【対象】 令和4年度しまね国際センター(SIC)訪問日本語コースに参加した学習者、日本語ボランティア、日本語教師

【参加者】 11名 (学習者7名、日本語ボランティア3名、日本語教師1名)

【内容】

- ・自己紹介
- ・小グループでの日本語での交流

【開催時期】 令和5年1月29日 10:00~12:00 (2時間)

【会場】 オンライン (Zoom)

【対象】 令和4年度しまね国際センター(SIC)訪問日本語コースに参加した学習者、日本語ボランティア、日本語教師

【参加者】 11名 (学習者7名、日本語ボランティア3名、日本語教師1名)

【内容】

- ・自己紹介
- ・小グループでの日本語での交流

2. 市区町村の日本語教育の取組への支援

(取組①) 市区町村を支援して実施する日本語教育

(該当なし)

※市区町村の取組支援については、日本語教室の所在する市町へのヒアリングを踏まえ検討

(取組②) 取組1以外の日本語教育を行う団体を支援して実施する日本語教育

(該当なし)

3. 「日本語教育の推進に関する法律」第11条に基づく基本的な方針の作成				
(取組①) 基本的な方針を作成する上で必要となる委員会の設置				
【委員会の実施結果】				
実施回数	(該当なし)			
実施スケジュール	※基本的な方針の作成については、今後の取組状況を踏まえ検討			
主な検討項目	(該当なし)			
【設置する委員会は、条例に基づく委員会か】				
【    】 条例に基づく    【    】 それ以外 (※どちらか○で選択)				
	氏名	所属	職名	役割
1				
2				
(取組②) 委員会における審議の基礎資料とするための調査実施				
(該当なし)				
(取組③) 委員会における調査審議を踏まえた基本的な方針の作成				
(該当なし)				

## 5 主要な取組の実施状況

令和4年4月	上旬 コーディネーターの配置 (～3月) 中旬 「やさしい日本語」の普及 (～2月) 下旬 日本語教室へのアンケート調査実施 下旬 ボランティア保険費用補助希望調査
5月	13～20日 日本語教室所在市町へのヒアリング (松江市、出雲市、雲南市) 15・22・29日 日本語パートナー入門講座東部会場 27日 総合調整会議 第1回 30日 <オンライン日本語コース>基礎 (毎週月・木、～7月7日) 下旬 日本語教室MAP配布
6月	上旬 <地域訪問型>第1期 (～9月) ※一部12月まで 18・19・26日 日本語パートナー入門講座西部会場
7月	上旬 オリジナル教材無償提供・出前研修調査 16日 日本語パートナーオンライン養成講座 18日 <オンライン日本語コース>レベル別・入門 (毎週月・木、～9月22日) 24日 先進地視察 (岡山県総社市)

8月	1～10日 日本語教室所在市町へのヒアリング（浜田市、益田市、大田市、安来市、江津市、奥出雲町、美郷町）
9月	上旬 <地域訪問型>第2期（～12月）※一部2月まで 4日 <企業訪問型>（～10月9日） 11日 日本語教室出前研修（益田市）
10月	3日 <オンライン日本語コース>レベル別・初級1（毎週月・木、～12月8日） 11日 日本語教室出前研修（雲南市）
11月	上旬 <地域訪問型>第3期（～2月） 29日 日本語教室出前研修（松江市）
12月	14・15日 先進地視察（山口県、山口県国際交流協会、ひろしま国際センター） 17日 出雲市日本語ボランティア養成講座 30日 <オンライン日本語コース>レベル別・初級1後期（毎週月・木、～3月2日）
令和5年1月	21日 大田市日本語ボランティア養成講座 25日 総合調整会議 第2回 29日 ボランティア・学習者等の交流会
2月	14～24日 企業訪問型日本語ボランティア研修 動画視聴 25日 企業訪問型日本語ボランティア研修 東部会場
3月	4日 企業訪問型日本語ボランティア研修 西部会場 下旬 事業終了、実績報告書の提出

## 6 評価と検証

1. 令和4年度の計画の評価と検証方法
<p><b>【令和4年度の目標】（再掲）</b></p> <p>令和4年度には、新たにオンライン日本語コース（基礎・レベル別）の設計・試行を行い、日本語学習機会の拡充を図る。</p> <p>また、日本語教室の所在する市町へのヒアリングを行い、日本語教室の運営継続のための支援と連携した取組に向けた現状を把握する。</p>
<p><b>【令和4年度の目標達成に向けた指標（定量評価・定性評価を含む。）】</b></p> <p>本事業では、日本語学習機会の拡充と日本語教室の安定的な運営のために以下の取組を主たる取組として実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・しまね国際センター（S I C）訪問日本語コース&lt;地域訪問型&gt;</li> <li>・しまね国際センター（S I C）オンライン日本語コース&lt;基礎・レベル別&gt;</li> </ul> <p>上記の取組を効果的に実施するための指標として以下の点から評価を行った。</p>
<p><b>【指標1：定量評価目標】</b></p>

しまね国際センター（S I C）訪問日本語コース＜地域訪問型＞の学習者数

○目標値 90名（前年度実績 65名）

○実績値 44名

学習希望者と日本語ボランティアをマッチングすることができないケースが多く、目標値には届かなかった。

【マッチングできなかった主な理由と人数】

	第1期	第2期	第3期	計
申込み（人）	55	26	24	105
マッチング成立	13	19	13	45
不成立	42	7	11	60
学習者の希望する時間・場所で活動できるパートナーがいなかった	16	0	6	22
学習場所の調整ができなかった	0	0	0	0
学習者都合（転居、多忙等）	2	0	2	4
学習者と連絡がつかなくなった	20	7	3	30
地域の日本語教室を紹介（参加）した	1	0	0	1
レベルが合わなかった	1	0	0	1
その他	2	0	0	2
マッチング率	23.6%	73.1%	54.2%	42.9%

【指標2：定性評価目標】

しまね国際センター（S I C）訪問日本語コース＜地域訪問型＞の学習者の満足度

○目標値 満足度（4段階評価のうち3以上） 70%（前年度実績 なし）

○実績値 89%

目標を上回る評価を得ることができた。

【指標3：定量評価目標】

しまね国際センター（S I C）オンライン日本語コース＜基礎・レベル別＞の学習者数

○目標値 40名（前年度実績 なし）

○実績値 49名

目標を上回る参加があった。

【指標4：定性評価目標】

しまね国際センター（S I C）オンライン日本語コース＜基礎・レベル別＞の学習者の満足度

○目標値 満足度（4段階評価のうち3以上） 70%（前年度実績 なし）

○実績値 100%

目標を大きく上回る評価を得ることができた。

**【検証方法】**

○指標2、4については、コース終了後、学習者にアンケートを実施した。

○指標4に関連して、第2回総合調整会議オブザーバーとして、学習者3名から意見聴取を行うとともに、委員との意見交換を行った。

**2. その他、令和4年度事業の評価と検証方法**

**【各取組の指標及び検証方法（定量評価・定性評価）】**

**【取組③】 都道府県等の域内における日本語教育の実施に関する連携のための取組**

（定量評価）日本語教室を有する市町村と共催したボランティア養成講座等の参加者数

今年度目標 20名（前年度実績：なし）

実績値 41名

目標を大きく上回る参加があった。

**【取組⑤】 日本語ボランティア入門講座**

（定量評価）参加者数

今年度目標 55名（前年度実績：50名）

実績値 42名

（定性評価）満足度（4段階評価のうち3以上） 70%（前年度実績 なし）

（検証方法）事務局による人数集計とアンケート実施・結果検証

実績値 94%

定量評価については、西部会場の参加者が少なく、目標の参加者数には届かなかったが、定性評価については、目標を大きく上回る評価を得ることができた。

**【取組⑩】 ボランティア・学習者等の交流会**

（定量評価）参加者数

今年度目標 30名（前年度実績：24名（延べ））

実績値 11名

（定性評価）満足度（4段階評価のうち3以上） 70%（前年度実績 なし）

（検証方法）事務局による人数集計とアンケート実施・結果検証

実績値 100%

定量評価については、交流会の目的を「今年度参加しているボランティアと学習者の交流」とし、今年度参加した学習者と活動した日本語ボランティアに限定して声掛けを行ったため、目標人数には至らなかった

が、定性評価については、目標を大きく上回る評価を得ることができた。

## 7 検証を踏まえた課題と今後の展望

### 1. 検証を踏まえた課題と今後の展望

#### (1) 検証を踏まえた課題

- ・しまね国際センター（S I C）訪問日本語コース<地域訪問型>におけるマッチング率の向上

定員を上回る学習希望者がいたにも関わらず、マッチングできない数が多かった。その要因としては、「学習者の希望する時間・場所で活動できるパートナーがいなかった」「学習者と連絡がつかなくなった」が多かった。これらを改善することにより、さらなるマッチング率の向上が求められている。

- ・しまね国際センター（S I C）オンライン日本語コース<基礎・レベル別>におけるレベルの拡大

本年度は、A2 レベル相当までの学習を限られた時間数で実施した。学習者の満足度は高かったものの、今後もさらに高い日本語レベルを目指して学習を続けたいという要望もある。また、文化審議会国語分科会「地域における日本語教育の在り方について（報告）」（令和4年11月29日）において、「地域における日本語教育において目指すべき日本語レベルは、自立した言語使用者であるB1とする。」とされており、レベルの拡充が求められている。

#### (2) 今後の展望

上記の課題解決にむけて次の2点に取り組んでいきたい。

- ・訪問日本語コース<地域訪問型>の募集・実施時期の変更

これまで年3期に分けて募集・実施していたものを、毎月募集・実施するよう変更する。そうすることによって、応募開始から学習開始までの期間を短くして、学習希望者の「今なら学べるというタイミング」や「学びたい気持ち」を逃さないようにして、マッチング率の向上を図る。このほかにも、学習希望者と日本語パートナーのミスマッチを解消する方策を検討する。

- ・オンライン日本語コース<基礎・レベル別>におけるレベルの拡大

カリキュラムの見直しと指導者の確保を、今後数年かけて実施するとともに、学習ニーズの把握に努め、地域の実情に応じたレベル設定を検討する。

### 2. その他、課題と困難な状況への対応方法等

#### (1) 課題と困難な状況への対応方法

市町村への個別ヒアリングを通じて、外国人住民の日本語学習の必要性や現状、日本語教室の運営状況等について確認した。市町村ごとに異なる日本語教育への対応状況を把握・分析し、日本語教室の活性化（受講者の増加等）と安定した運営の継続や、新たな日本語教室の体制づくりを推進していく。

### 【参考写真一覧】

取組番号	写真名
1-⑤	出雲市日本語ボランティア養成講座（出雲市）



1-⑤

日本語ボランティア入門講座（出雲市）



1-⑥

しまね国際センター(S I C)訪問日本語コース<地域訪問型>



1-⑥

しまね国際センター(S I C)オンライン日本語コース<レベル別>



**【参考資料一覧】**

取組番号	資料名	NEWS 掲載
1-①	総合調整会議議事録 第1回 議事録	
1-①	総合調整会議議事録 第2回 議事録	
1-④	日本語教室所在市町へのヒアリング 議事録	
1-⑥	しまね国際センター(S I C)オンライン日本語コース<基礎>教材	
1-⑭	島根県オリジナル教材『となりでにほんご』翻訳教材 (クメール語、インドネシア語、ネパール語、ミャンマー語)	○
1-⑭	日本語教室マップ	○
1-⑭	「やさしい日本語」の手引き	○